

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	いちごみんと			
○保護者評価実施期間	2025年9月1日 ～ 2025年9月30日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	37	(回答者数)	37
○従業者評価実施期間	2025年10月1日 ～ 2025年10月15日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	37	(回答者数)	7
○事業者向け自己評価表作成日	2026年1月31日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保護者送迎を活かした相談・情報交換	保護者送迎の際に顔を合わせてじっくり話せる機会を活かし、園・家庭での出来事や困り事を丁寧に受け止めています。その情報は日々の記録や職員間ミーティングで共有し、専門職チームが子ども一人ひとりの発達や特性に応じ支援計画に反映しています。こうした保護者送迎の機会を活かした相談・情報交換は、より丁寧に実践的な療育に繋がっています。	日常的には、送迎時の相談内容を記録・共有し、療育プログラムに反映しています。今後も職員間ミーティングによる情報共有を継続し、ご家庭に寄り添った支援を提供していきます。さらに次回の面談や送迎時にフィードバックすることで、双方向のコミュニケーションを深め、より丁寧に実践的な支援につなげていきます。
2	個別ニーズに応じた多様なプログラムの実施	日々のミーティングを大切にし、子ども一人ひとりの様子や変化を職員間で丁寧に共有しています。小さな気づきも話し合いながら、課題設定や活動内容を柔軟に調整しています。また、一人ひとりに合わせた多様な活動プログラムが実施できるよう、専門職同士が連携を深めるための研修を行い、支援の質の向上に努めています。	個別ニーズに細やかに応えられるよう、活動のバリエーションを増やし、新たな視点や手法も取り入れながらプログラムの可能性を広げます。一人ひとりの特性や強みを丁寧に捉え、それぞれに合った活動を選択できる幅を高めます。また、職員の専門性や得意分野を活かし、これまでの実践を大切にしながら、多様で柔軟なプログラム展開を目指します。
3	安心と信頼を育む家族支援の取り組み	「いちごみんとに通ってよかった。小さなことで力になってくれる」その言葉を励みに、日々の関わりを大切にしています。保護者様の思いに耳を傾け、安心して相談できる関係づくりを心がけています。保護者交流会や学習会、相談支援、アイペアレンツ通信や冊子の発行を通して情報発信に努めています。ご家族とつながり、共に歩む姿勢を大切にしています。	今後は、ご家族がより気軽に思いを伝えられる機会を広げながら、発達や就学、関わり方など具体的なテーマに応じた学びの場と、保護者同士が安心して語り合える交流の場を大切にしています。また、専門職の視点から家庭で実践できる関わりのヒントや支援の考え方を分かりやすく発信し、迷ったときにいつでも頼れる存在であり続けます。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	活動の積み重ねや学びのつながりを伝わりやすくする工夫	活動の継続性が課題として挙がる要因は、子ども一人ひとりの発達段階やその日の状態に合わせて活動を調整している点にあります。同じねらいであっても、理解度や興味に応じて教材・教具を変更しているため、活動内容が毎回異なって見えることがあります。そのため、実際にはねらいは積み重ねていても、継続性が見えにくくなることがあります。	子どもが楽しみながら取り組む活動の中で、これまでの積み重ねや学びのつながりが保護者様により分かりやすく伝わるよう工夫していきます。前回までの取り組みとのつながりや成長が分かる活動構成をさらに工夫し、日々の学びの継続性が見える支援を目指します。
2	保護者支援への関わり方の調整	保護者支援行事の準備や会場の確保には時間を要します。日々の療育と並行して企画・準備を行う職員が中心となるため、案内時期がやや遅れることがあります。今後は、職員全体で役割を分担し、負担の偏りを減らしながら、よりスムーズに保護者に情報を届けられる工夫が課題です。	年に何回も保護者支援行事を実施する中で、準備や運営には多くの時間と手間がかかり、職員に負担が偏ることもあります。それでも、保護者様に喜んでいただける場を提供したい思いで、協力しながら工夫を重ねています。今後は役割分担や準備の工夫を進め、参加しやすく温かい交流の場をさらに充実させていきます。
3	活動発信のさらなる充実	保護者通信や冊子では、活動内容やねらいを詳しく伝え、多くの保護者様に楽しみにいただいています。こうした情報を事業所外にも届けることは、活動の価値や取り組みを広く知っていただくために重要ですが、日々の療育と並行して行うため、計画や体制を工夫しながら進める必要がある点が課題の要因です。	保護者通信や冊子では、活動内容やねらい、子どもたちの成長を丁寧に伝えし、多くの方に読んでいただいています。事業所外にも発信し、発達に課題のあるお子様や保護者の参考となり、地域の理解や支援にも繋がられるよう、職員で協力し役割を分担しながら、記録や伝え方の工夫を進め、活動の価値や成長の様子を広く届けられる体制を整えます。

事業所名	いちごみんと	公表日	2026年1月31日
------	--------	-----	------------

利用児童数 37 回収数 37

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	34	3	0	0	広いと感じます。	今後も、活動内容に応じた空間づくりを継続し、安全と動きやすさを両立した環境を整えていく。
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	36	0	0	1	先生の人数が多めなので、安心して子どもを預けられる。	現在の職員配置を大切にしながら、より安心できる支援体制を整えていく。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	31	2	0	4	床を上げているが、全体的に室内はバリアフリー。その理由は？	「足元が滑らず暖かく衛生を保つために、床を全体的に約10cm上げ、カーベットを敷いている」説明を丁寧にしていく
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	35	1	0	1		清潔で心地よい環境を保ちながら、子どもの活動に応じて空間配置をさらに工夫していく。
適切な 支援の 提供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	36	1	0	0	自分でできることが増えたり、あいさつや言葉が増えてきて、友達との関わり、感情コントロールなどに成長を感じる。	一人ひとりの強みを伸ばしながら、専門性を高めた支援で安定した成長を支えていく。
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	34	1	0	2		公表した支援プログラムを日々の療育で具体化し、専門的支援として実践している。今後も質の向上に努めていく。
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	35	0	0	2	家庭で十分に向き合えないはさみやのりの使い方の基礎をいちごみんとで丁寧に支援していただき、確実に定着した。	療育全般の様子を多角的に分析し、子どもと保護者の思いを反映した計画作成をさらに深めていく。
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	34	1	0	2		高い評価を励みに、ガイドラインに沿いながら、一人ひとりに寄り添い、より具体的に実践的な支援内容へと充実させていく。
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	34	3	0	0	きめ細やかな支援ができている。	今後も、計画を大切にしながら職員同士で思いを共有し、一人ひとりに寄り添った支援をこれからも丁寧に続けていく。
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	35	0	0	2	様々な楽しい活動を工夫している。感覚統合を柱に据えつつ、言語発達的面も考慮した様々な活動を工夫している。	さらに新しい情報を研修で学び、感覚統合を柱に言語発達も考慮した楽しい活動を工夫し、お子様の力を伸ばしていく。
	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	20	1	2	14	幼稚園・保育園・子ども園に通園しているのので、いちごみんとと園との交流行事が必要と感じたことがない。(複数意見)	多くの園との連携は長年継続しています。今後も、保護者様のご希望を尊重して、連携の機会を増やしていく。
保護者 への 説明等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	36	1	0	0		契約時の丁寧な説明を継続し、日々の質問にも迅速に対応し、内容を職員間で共有して対応力を高めていく。
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	36	0	0	1		面談時は説明後の質問時間を十分に確保して、より分かりやすい言葉で伝えていく。
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	33	2	0	2	多くの学習会・交流会開催は嬉しいが、もう少し早く案内があれば助かる。参加が楽しみ。ババが参加しやすい行事も希望。	家族支援プログラムに、多くの保護者様に参加いただけていますが、内容や機会について、今後も検討していく。
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	36	0	0	1	子どもの様子をよく見てくれていて、子どもの状況をしっかりと見守ってくれている。プリントコメントも嬉しい。	保護者との対話機会も増やし信頼関係を育み、情報共有を深め、成長や健康の変化を丁寧に伝える体制を継続していく。
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	35	0	1	1	いつでも相談は可能ですが、希望者のみ面談の頻度を増やしたい。毎回、端的かつ明瞭なアドバイスをもらっている。	相談回数に上限はありませんが、相談の希望者が多いときは、平日を提案させていただくなど今後も曜日を調整する。
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	34	2	0	1	いちごみんとのような事業所が増えて欲しいと思うぐらい信頼できる。2歳〜約4年間通い、とても幸運と感謝している	共感の姿勢を大切にし安心して過ごせる支援を今後も続けていく。
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	32	1	0	4	夏祭りでは、園や学校の支援級に通う方の話を聞け、保護者同士や職員とも交流できてよかった。	今後も学習会、交流会、きょうだい・家族支援行事などを充実させ、保護者や職員が情報交換でき、安心できる家族支援を実感していただけるようにする。
	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	33	2	0	2	不安な時に相談できる場があるので、感謝している。就学に関する困りごとや、不安なことをいつでも相談でき、安心できる。アドバイスもいただいている。	相談の場があることを丁寧に伝え迅速で安心できる対応を継続していく。
	20	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	32	2	0	3		子どもや保護者の思いに寄り添い理解しやすい方法で情報共有を今後も丁寧に続けていく。
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	30	3	1	3	通信で活動紹介を楽しみにしているが、ホームページでも活動等も更新すると契約前の新規利用者様にも情報が伝わる。	通信やホームページを積極的に活用し活動概要や評価結果の発信を充実させる。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	34	0	0	3		個人情報の適切な管理を徹底し安心して利用頂ける環境づくりを続けていく。

		チェック項目	はい	どちらとも いいない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	32	0	0	5	定期的に訓練して、そのお知らせもある。	マニュアルに基づく訓練を継続し、通信や連絡帳で内容を丁寧に共有しながら、安心できる環境づくりを進めていく。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	32	0	0	5		今後も、訓練内容を見直しながら実施を継続し、より安心できる環境づくりを進めていく。
	25	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	33	1	0	3		避難訓練や安全計画の内容を丁寧に発信しながら、職員間の連携強化と対応力向上に努めていく。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	31	1	0	5		日常的な安全点検と声かけを大切にし、信頼につながる情報共有を行う。
満足度	27	こどもは安心感をもって通所していますか。	37	0	0	0	とても安心を得られる。	安心感のある環境を整えながら、楽しく通える支援を行い、安定した通所習慣の定着を目指す。
	28	こどもは通所を楽しみにしていますか。	37	0	0	0	毎回、とても楽しそうに通所している。	子どもが楽しみに通所できるよう、魅力ある活動内容をさらに工夫し充実させる。
	29	事業所の支援に満足していますか。	35	1	0	1	療育児童の成長につながる素晴らしい事業である。	子どもの成長につながる質の高い支援を今後も継続し、より良い療育を追求していく。

事業所名		公表日				
いちごみんと		2026年1月31日				
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	7	0	広い教室を活かし、安全に配慮しながら適切な利用定員で運営している。	空間配置を定期的に見直し、安全で活動しやすい環境を維持する。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	7	0	常勤職員が多く配置されており、協力しながら複数の専門的視点で子どもの状況を見られる体制を整えている。	配置体制を維持しつつ、連携の質を高める。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	7	0	床を一段上げてカーベットを敷くことで、安全・清潔に過ごせる環境を整えている。	今後も更に安全・清潔に過ごせる環境を整えていき、その工夫を必要に応じて保護者様に説明していく。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	7	0	定期的に整備・清掃・消毒を行い、子どもたちが気持ちよく活動できる環境を整えている。	今後も、清潔で快適な環境を維持していく。快適な環境を保ちつつ、活動の広がりに関わせた空間づくりをさらに工夫していく。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	7	0	個別に使用できる部屋やスペースを複数確保できている。必要に応じて利用できる居心地のよい環境である。	今後も、個別空間の活用を共有して、お子様の状況に合わせて、柔軟に対応していく。
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	7	0	業務改善のPDCAサイクルは、職員全員が目標設定や振り返りに関わりながら取り組んでおり、定着している。	PDCAを継続していき、新しい職員にも定着していき、今後も実践に反映していく。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7	0	保護者の意見を把握し、職員で結果を話し合いながら、事業所をより良くするために大切に活かしている。	保護者の声を大切にし、職員で共有した上で話し合い、継続的に活かしていく。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6	1	職員が意見を出し合い改善に取り組んでいる。進行中の課題もあるが、今年度は一歩ずつ前進させていくようにしている。	意見交換を継続していき、課題解決を進めていく。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	0	7	第三者評価は実施していないが、外部の助言やアンケートをもとに業務改善と質の向上に努めている。	今後も、外部の助言やアンケートをもとに業務改善と質の向上に努めていく。客観的な視点をさらに活用していく。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	7	0	内部研修は充実してきている。外部研修にも声をかけ合い、積極的に参加できた。	外部研修への参加が有意義であったため、受け身にならず、各職員が主体的に研修を探し、学びを共有していく。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	7	0	支援プログラムという柱があり、内容やねらいをいつでも共有できるようにし、日々の支援に活用している。	支援プログラムを全員で共有し、必要に応じて改善しながら日々の支援に活かしていく。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	7	0	アセスメントを全職員で情報共有し専門的な意見を交わしながら、保護者様とお子様のニーズを分析し支援計画書を作成している。	保護者と連携し、生活全般の課題を共有しながら、子どもを主体にして具体性のある計画づくりを進めていく。
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	7	0	児童発達支援管理責任者を中心に、職員が何度も話し合い、お子様の最善の利益を最優先に考えて計画を作成している。	多職種専門的な意見をより計画に反映していく。
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	7	0	児童発達支援計画は職員間でしっかり共有され、計画に基づいた支援が一貫して提供されて、計画に沿った支援を努めている。	理解の差が出ないように、確認の機会を増やしていく。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	7	0	数年かけて見直し・改訂を重ねたアセスメントシートを用い、5領域を反映した評価を丁寧に行っている。	必要に応じて、臨機応変に評価内容を見直す。
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	7	0	支援計画は職員が常に確認し、子ども一人ひとりのねらいを把握して支援している。内容は共有され、一貫性を保つため、日々のミーティングで確認し、変更時も迅速に共有している。	高い評価を励みに、ガイドラインに沿いながら、一人ひとりに寄り添い、より具体的に実践的な支援内容へと充実させていく。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	7	0	計画を立て、各活動リーダーが提案し、子どもの状況に合わせて話し合いながらチームで作り上げている。	チーム立案でのを継続していき、振り返りながら、活動プログラムの内容を改善していく。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	7	0	全職員が工夫し、子どもが興味を持てるように活動プログラムの内容や進め方を工夫している。	最新の情報による研修などで、職員が子どもの興味に応じた工夫に前向きに取り組んでいく。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
適切な支援の提供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせで児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	7	0	一人ひとりの状況を把握しスモールステップを大切にしながら、個別と集団活動を組み合わせで支援している。	個別から集団へのステップアップなど、発達段階に応じた移行プロセスを意識した計画づくりを行い、支援の質を向上していく。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	7	0	打合せで内容や役割を確認してチームで連携している。毎日の継続が適切な支援の基盤で安心して療育に臨める。	事前の共有を継続していき、不安なことを一つずつ丁寧に解決して、最善の支援を目指していく。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	7	0	子どもの成長や課題、家庭や園での様子、体調や対応の工夫などを共有し、分からない点も話し合い次に活かす。	振り返りを継続していき、次の支援の発展を喜びにつなげていく。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	7	0	正確に引き継げるように、記録を徹底し、共有・検証して支援や保護者対応の改善に活かしている。	日々の共有・検証の積み重ねの記録の質を向上していく。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	7	0	支援会議やミーティングを重ねてモニタリングを行い、保護者の意見も踏まえて必要に応じて見直ししている。	定期見直しには柔軟に対応し、丁寧に取り組んでいく。
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	7	0	必要に応じ、児童発達支援管理責任者が中心となり関係機関と連携している。	連携できる関係機関を増やししながら、連携していく。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	7	0	電話連絡や必要に応じた訪問など、できることから関係機関と連携して支援体制を整えてきている。	必要に応じて訪問や連絡を通して、連携の機会を増やしていく。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	7	0	インクルージョン推進のため、職員は最新のガイドラインを基に支援を行い、相互理解を深めている。移行先への適応支援として集団プログラムを実施し、移行先機関との情報交換も保護者様の希望に応じて行っている。	移行後のフォローについては、保護者様と関係機関と当事業所の連携をもとに、情報交換を丁寧にやっていく。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	7	0	保護者様のご希望に応じて、困りごとがあるときは、資料を作成して説明し、安心して就学できるよう努めている。	学校との連携を強化していく。
	28	(28～30は、センターのみ回答)				
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答)	7	0	児童発達支援管理責任者等が連絡会に出席し、児童の情報共有を行いながら連携を深めている。	今後も、児童発達支援管理責任者等が中心に連絡会などに出席し、今後もさらに連携を強めていく。
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	7	0	できるだけ定期的に幼稚園、子ども園を訪問し、職員同士の連携できる機会を作っている	利用者は毎日幼稚園や子ども園に通つため、療育時間中に交流行事の保護者ニーズが無いが、継続して訪問等を通じ連携していく
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	7	0	日頃から子どもの様子を丁寧に伝え合い、発達の状況や課題について共通理解を持てるよう努めている。	今後も保護者との対話機会も増やして信頼関係と情報共有を深めていき、成長や健康の変化を丁寧に伝える体制を継続していく。
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	7	0	保護者学習会や家族支援の場を通じて参加者が増え、療育への理解を深めながら、家族の対応力を高める工夫を続けている。	学習会ごとに保護者の声を大切に受け止め、内容を見直ししながら、より充実した学びの場づくりをめざしていく。
保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	4	3	契約時に説明している。すべてを全職員で説明するのは難しいため、質問への回答を共有しながら対応している。	今後も、全職員で質問への回答を共有しながら対応していく。
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7	0	お子様中心のアプローチを重視し、保護者様の意見や希望も尊重して、面談では丁寧に配慮深い対応を心がけている。	子どもの意見表出の工夫を続ける。
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	7	0	面談を通して十分に話し合い、同意を得ている。	今後も急がず、さらに丁寧に分かりやすい説明を心がけていく。質問時間を十分に確保して、より分かりやすい言葉で伝えていく。
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7	0	家族の相談に熱心に応じ、プライバシーを守りながら職員で共有し、連携して最善の支援を行っている。	家族の相談に丁寧に応じ、プライバシーに配慮しながら適切に共有するとともに、研修で専門性を高め職員がチームとして取り組む。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
保護者への説明等	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	7	0	きょうだい支援行事については、内容を工夫していき、参加者も増えた。今年度の人形劇、夏祭り、地域ボランティアとの交流など実施できた。	保護者様のご希望をお伺いしながら、新たな行事を計画していき、職員で役割を分担しながら継続していく。
	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7	0	迅速に対応しているが、希望が重なる曜日は調整している。平日午前はゆっくり対応できることをお伝え、協力いただく場合もある。	職員共有のもと専門的なチームによる迅速対応をしていく。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	5	2	通信や冊子はこまめに発行し、子どもや保護者に発信している。	在籍家庭だけでなく、HPなどで新規の保護者様にも広く魅力ある情報発信を継続していき、さらなる信頼関係を築いていく。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	7	0	個人情報是最善の注意を払い、大切に保管・管理している。	管理体制を維持していく。
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7	0	子どもや保護者の表情や表現から意図を読み取り、丁寧に応えている。	お子様や保護者様との意思疎通に細心の配慮を継続し、分かりやすい方法で丁寧に情報を伝えていく。
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	7	0	まず児童に関わる人との関係を大切にし、地域ボランティアとの交流でも互いに学び合っている。	地域との交流機会をさらに増やしていき、地域との関係を深めていく。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	7	0	保護者には理解が難しいマニュアルも、通信などで詳しく説明しており、職員にとっても分かりやすい内容になっている。	内容を定期的に見直ししながら安全第一を徹底。訓練の様子や改善点を連絡帳や通信で分かりやすく伝え、家庭との連携を深める。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	7	0	BCPを策定し、研修で学んだ資料をもとに避難や救出などの訓練を定期的に行っている。	BCPを定期的に見直ししながら、訓練後の振り返りで出た課題や気づきを具体的な改善策に反映し、次回訓練へ確実につなげていく。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	7	0	その状況は、判明次第速やかに職員で共有し、安全確保につなげている。	研修での学びを基に、共有体制を強化していく。
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	7	0	研修の通り命を守る重要事項と認識し、情報を共有して医師の指示に基づき対応している。	細心の情報を共有していき、対応の確認を継続していく。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	7	0	年8回の避難訓練や研修を継続し、マニュアルに基づいて全職員で安全管理を考えながら支援を行っている。	実施後の振り返りを共有し、課題をマニュアルへ反映させて対応力と安全意識をさらに高めていく。
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	7	0	通信や連絡帳で、安全計画や訓練の内容を写真なども活用して丁寧にご家庭に伝えるようにしている。	安全の意識を家庭と連携していく取り組みを継続する。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	7	0	全職員が臨場感を持って考えられる研修を行い、ヒヤリハット事例を共有して再発防止に取り組んでいる。	事例共有を継続し、事例を分析して具体的な行動基準に落とし込み、定期的に振り返ることと再発防止の実効性をさらに高めていく。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	7	0	虐待防止研修を行い、「絶対に虐待をしない」基盤を共有し、子どもを全員で守る信念を持って対応している。	日々の振り返りや外部研修の活用により意識と対応力をさらに高め、子どもを全員で守る体制を強化していく。
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	7	0	職員は身体拘束を行わないという共通理解のもと、子どもの人権を大切にしており、研修でも確認している。	方針を研修だけではなく、日々の支援でも確認を継続していく。